【輸入ワクチンの注意事項　１】

海外でリスクのある感染症に対するワクチンで、日本では未認可のワクチンを当センターでは輸入して扱っています。日本では未認可ですので、万一の重篤な副反応が出ても政府の補償対象にはならない点をご了承ください。

接種当日は激しい運動は避けてください。入浴、飲食に制限はありません。

【腸チフスワクチン】(Typhim Vi® Sanofi Pasteur 社製, Typherix® GSK 社製)

途上国を中心に広く流行している「腸チフス」を予防するためのワクチンです。患者の便や尿を介して、水や食べ物から経口感染します。感染すると１～３週間後に高熱と腹痛で始まり下痢が起こってきます。適切な治療が得られないと長期化や慢性化する病気です。

ワクチンは、２歳以上の人を対象に、流行地へ出かける２週間以上前に１回 0.5mL 接種します。２～３年間有効で、有効率は８８～９６％といわれています。

副作用として、接種部位の発赤腫脹や痛みなどが約２０％に見られますが通常２日以内には消失します。２～５％程度に頭痛や倦怠感などが見られます。また、理論上３００万人に一人程度ショック症状など重篤な副反応の可能性があります。妊婦への影響は確認されていないので必要不可欠の場合を除いて接種を避けてください。授乳中の母乳への影響は特に心配はないと考えられています。

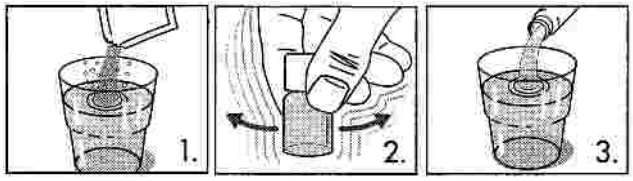
【コレラ・大腸菌ワクチン】(Dukoral®　SBL 社製)

衛生的な水が手に入らない難民キャンプや被災地で流行するコレラや、途上国で広く分布する毒素原性大腸菌（ＥＴＥＣ）を予防するワクチンです。

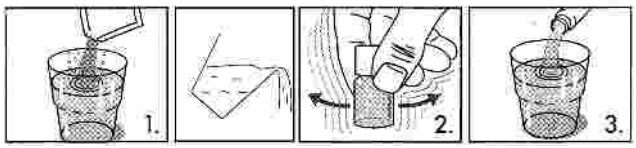
コレラは激しい水様下痢が起きる病気で、重症化すると１日に１０リットル以上の下痢を起こし著しい脱水を起こし、死に至る伝染病として近代までおそれられてきました。現在は適切な補液と抗生剤治療により容易に治療できます。

ＥＴＥＣは途上国で下痢をする最も頻度の高い病原体です。数日の下痢の後に自然に治る事が多い比較的軽症の下痢で、医学的にはあまり問題になりません。

しかし渡航先での貴重な時間を下痢で失うことを防ぐ目的でこのワクチンがつかわれます。



６才以上は 150cc の冷水に(1)粉末（発泡性）を溶かし(2)ワクチンの瓶を良く振り (3)混ぜて飲む。



２～５才の子供は、(1)150cc の冷水に粉末を溶かした後に半分捨ててから、(2)ワクチンの小瓶を良く振り、(3)混ぜて飲む。
粉末を溶かした後２時間以内に飲むこと。

このワクチンにより、コレラの約 85%、ETEC 下痢症の約 60%、旅行者下痢症全体の約 23%を防げると言われています。

Dukoral は胃酸に弱いので、胃酸の分泌を減らすために服用の前後１時間は飲食を避けてください。発泡性の粉末には重曹が入っていて胃酸を中和します。服用回数は年齢によって違います。

① ６才以上は、１週間間隔で２回内服します。追加接種は２年後に１回です。３年以上経過したら２回内服します。
② ２～５才は、１週間隔で３回内服します。追加接種は６ヶ月～２年後に１回です。３年以上経過したら３回接種です。

名鉄病院予防接種センター　052-551-6121（代）052-551-6126

【輸入ワクチンの注意事項　２】

海外でリスクのある感染症に対するワクチンで、日本では未認可のワクチンを当センターでは輸入して扱っています。日本では未認可ですので、万一の重篤な副反応が出ても政府の補償対象にはならない点をご了承ください。

接種当日は激しい運動は避けてください。入浴、飲食に制限はありません。

【髄膜炎菌性髄膜炎[4 価]ワクチン】(Mencevax® GSK 社)

髄膜炎菌性髄膜炎「流行性髄膜炎」を予防するワクテンです。ポリサッカライドワクチンです。

流行性髄膜炎はアフリカのサブサハラ地域に広く分布し、また欧米の学生寮で時々流行が見られます。サウジアラビアではメッカ巡礼の入国の際の接種を義務づけており、また欧米で大学の入寮の際に接種を義務づけています。

２歳以上の子供と成人に、１回０．５ｍＬ接種します。２週間後には９０％以上の人で抗体が得られ、３～５年間程度持続します。妊娠中の影響は確認されていないので、必要不可欠の場合を除いて接種を避けます。授乳中の母乳への影響は特に心配ないと考えられています。副作用として、接種部位が少し赤く腫れることがありますが、２日以内に消失します。３～５％程度に微熱、倦怠感、頭痛がみられることがあります。また、理論上３００万人に一人程度ショック症状など重篤な副反応の可能性があります。安全なワクチンですので、流行地域へ出かける人やアメリカの大学に留学する人はぜひ接種していってください。

【Tdap　青年用 DPT ワクチン】(Boostrix® GSK 社, Covaxis® Sanofi Pasteur 社)

日本では破傷風、ジフテリア、百日咳の予防のため、DTP ワクチンを乳幼児期に、DT ワクチンを11～12 才で接種した後は追加接種を行いませんが、これらのワクチンは１０年～２０年程度で免疫が下がってきます。このため各国では１０年ごとに追加することを推奨しています。そこで使われるのが Tdap です。ジフテリアや百日咳ワクチンは小児量を青年以上に接種すると大きく腫れるなどの副反応が起きるため、接種量を減らすことが必要です。そこで破傷風の量を増やしジフテリアと百日咳の量を減らした、接種量を青年以上用に調整したワクチンが Tdap です。

アメリカ合衆国では大学入学時に Tdap の接種を要求することが多いため、追加接種にこれを使用します。カリフォルニアでは百日咳の流行があったため、特に厳しく要求されます。

接種後、２～３日後に接種部位の発赤(30%)や痛み(73%)が見られますが、通常２日程度で消失します。

【ダニ脳炎　FSME】(Encepur®, Novartis 社製)

ダニ脳炎はヨーロッパからロシアの森林部に分布する脳炎で、近年北海道でもみつかっています。ダニに咬まれることで感染し脳炎をおこします。都市部での滞在では必要性は低いですが、森林部や草原で活動する場合は予防が推奨されます。

接種スケジュール

	年齢	通常接種	短期接種法	
			FSME-IMMUM[3]	ENCEPUR[4]
基礎接種	１才以上	0, 1–3 ヶ月,6–15 ヶ月後	0, 14 日後, 5–12 ヶ月後	0, 7, 21 日後
追加接種初回	１才以上	3 年後	3 年後	12～18 月後
追加接種その後	５０才未満	5 年後	5 年後	5 年後
	５０才以上	3 年後	3 年後	3 年後

名鉄病院予防接種センター　052-551-6121（代）052-551-6126